



公益財団法人
ワンパーセント
イオン1%クラブ
概要書 2021

ワンパーセント
公益財団法人 **イオン1%クラブ**

〒261-8515 千葉県美浜区中瀬1-5-1
TEL:043-212-6023 FAX:043-212-6461
URL:<https://aeon1p.or.jp/1p/>



活動の詳細はホームページへ フェイスブックもご覧ください

考える力、広い視野、思いやりの心を養い、
子どもたちの未来を育んでいきます。



目次

- 03 ご挨拶
- 04 設立の経緯
- 05 イオン1%クラブの事業

-  次代を担う青少年の健全な育成
- 07 イオンチアーズクラブ
- 09 イオンeco-1グランプリ
- 11 中学生作文コンクール
- 13 学校建設支援事業
- 15 イオンユニセフセーフウォーターキャンペーン

-  諸外国との友好親善の促進
- 17 ティーンエイジアンバサダー
- 19 アジアユースリーダーズ
- 21 イオンスカラシップ

-  地域社会の持続的発展
- 23 災害復興支援
- 27 首里城復興支援
- 29 ふるさと未来支援

- 33 イオン1%クラブのあゆみ
- 35 2021年度活動予定
- 36 創設者・役員・評議員一覧
- 37 寄附・協賛企業一覧

ご挨拶

このたび、横尾 博氏の後任として、理事長に就任いたしました森 美樹でございます。

設立30周年の節目を経て、当財団が新たな歩みを始めた昨年は、新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的な感染拡大により、人々のくらしや企業活動が厳しい制限を余儀なくされ、世界経済はリーマンショック以来の大幅なマイナス成長となりました。

この未曾有の状況の中当財団は、「お客さまからいただいた利益を社会のために役立てる」という想いから、十分な食事の機会が持てない子どもたちと子育て世帯への支援を行ったほか、生活に困窮するアジア5か国の在日留学生や技能実習生に対して、各国の駐日大使館を通じて支援金をお渡ししました。

また、高校生交流プログラムの「アジアユースリーダーズ」では、「コロナ禍に伴う学校教育上の課題と改善点・打開策」をテーマに、9か国72人の高校生がオンラインによるディスカッションとチーム発表を行いました。

脱炭素社会の実現に向けた道のりは険しく、社会の分断への懸念はさらなる高まりを見せています。現在、この状況に危機感を抱く「ミレニアル世代」や「Z世代」と呼ばれる若者たちが声を挙げ、変革を促す原動力となりつつあります。

当財団は、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、地域・国際社会と連携し、明るい未来を切り拓く若い力を支援してまいります。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

理事長

森 美樹



設立の経緯

企業による社会貢献活動が、日本において未だ本格化していなかった1989年、ジャスコ株式会社代表取締役会長(当時)岡田卓也の提唱により、「イオングループ1%(ワンパーセント)クラブ」が設立されました。

ジャスコ誕生20周年を機に、「絶えず革新し続ける企業集団」として、「『平和』を追求し、『人間』を尊重し、『地域』に貢献する」という新生イオングループの基本理念の具現化を図り、社会的責任を果たすことがその趣旨でした。

企業の業績にかかわらず継続的に活動するため、グループ優良企業各社が税引前利益の1%を拠出し、事業の柱を「環境保全」「国際的な文化・人材交流、人材育成」「地域の文化・社会の振興」と決めました。

各事業で取り組む社会貢献活動の原点は、イオンの前身のひとつである岡田屋の時代に遡ります。

1958年、親を亡くした子どもの嘆きを表した中国の故事「風樹の嘆」にちなんで名付けられた

「風樹会」という交通遺児育英会を組織し、1カ月の学費に相当する金額を、毎月5名の高校生奨学金として給付しました。この活動は後に提携した企業にも受け継がれ、企業の規模にかかわらず「できることから始める」という企業風土を醸成するきっかけとなりました。

2017年、岡田卓也が理事長をつとめる公益財団法人岡田文化財団による給付型奨学金制度として復活し、大学進学を目指す高校生への学資支援を行っています。

イオンの基本理念

お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。

イオン(AEON)とは、ラテン語で「永遠」をあらわします。

私たちの理念の中心は「**お客さま**」:イオンは、お客さまへの貢献を永遠の使命とし、最もお客さま志向に徹する企業集団です。

平和:イオンは、事業の繁栄を通じて、平和を追求し続ける企業集団です。

人間:イオンは、人間を尊重し、人間的なつながりを重視する企業集団です。

地域:イオンは、地域のくらしに根ざし、地域社会に貢献し続ける企業集団です。



イオンは基本理念のもと、絶えず革新し続ける企業集団として、「お客さま第一」を実践してまいります。



ワンパーセント
イオン1%クラブの事業

イオングループの主要企業が税引前利益の1%相当額を拠出し、「次代を担う青少年の健全な育成」、「諸外国との友好親善の促進」、「地域社会の持続的発展」を3つの柱となる事業として活動しています。



→寄付・協賛企業一覧はP37・P38を参照



次代を担う青少年の
健全な育成

環境・社会をテーマに、子どもたちが社会的なルールを学びながら身近な地域の問題を主体的に捉え、考える力を育てます。また、教育施設が不足する国々の学校建設などを支援します。

P.07 - P.16



諸外国との友好
親善の促進

学生たちに国際的な文化・人材交流の機会を提供し、相互理解を深めることで日本と諸外国との友好親善を深めます。また、日本への留学生に対する奨学金授与など、国際人の育成を支援します。

P.17 - P.22



地域社会の
持続的発展

地域に根ざし、次代に引き継ぐべき伝統行事や文化の継承、そしてこれらを担う人材の育成などを支援します。また、大規模自然災害により被災した地域の復旧・復興を支援します。

P.23 - P.32



2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標 (SDGs)」です

イオン チアーズクラブ



参加者の声

収穫した長ネギを持ち帰り、学んだことを家族に教えてあげるのが楽しみ。

参加者の声

収穫した白菜の他に、農場のある地域についても学べたのが良かったです。

保護者の声

田んぼで子どもの嬉しそうな笑顔を見ることができ、親として嬉しかったです。

畑の草むしりを体験

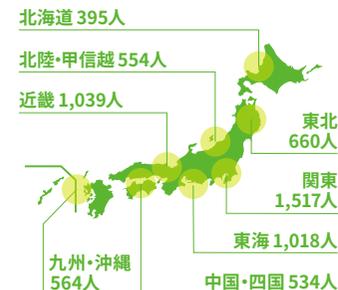
環境・社会をテーマに、考え、学ぶ

小学1年生から中学3年生までの子どもたちが、集団行動を通じて社会のルールやマナーを学びながら、環境や農業などへの興味・関心や考える力を育む場として全国434カ所を拠点に、体験学習を行っています。1996年、環境省の事業である「こどもエコクラブ」の支援をきっかけにスタートしました。「イオンチアーズクラブ」への改称から15周年の節目の2020年度より各クラブが個別に「環境・社会」に関する具体的なテーマを選定し、地域の特性に即した活動を目指しています。



2021年度の活動予定

各エリアで壁新聞発表大会入賞クラブによるエリア交流会を秋に予定しています。



現在参加しているメンバー

6,281人
YYYYYYYY

全国で活動しているクラブ総数

434クラブ
●●●●●●●●

※2021年2月時点



グリーンアスパラガスを収穫



壁新聞発表



レモン電池の実験に挑戦

イオン (エコワン) eco-1グランプリ



参加者の声

この賞をいただいて、改めて自分たちが発信していく意義を実感できました。

参加者の声

海洋ごみ問題を同世代の高校生に知ってもらえたことが嬉しかったです。

参加者の声

審査員の先生からご指摘を受けて、新たな課題を見つけることができました。

海洋ごみの調査をする山陽学園高校の生徒

広めよう、エコ活動の環

高校生の優れたエコ活動を顕彰する「イオン eco-1グランプリ」。環境活動に取り組む全国の高校が成果発表と情報共有を行う場です。地球の未来を担う若者たちが、環境問題について考え行動するきっかけとなることを願い、2012年にスタートしました。2020年は、審査員会場と全国各地の学校をZoomでつなぎ、第9回イオン eco-1グランプリの最終審査会と表彰式を開催しました。

詳しくはこちら



公式HP

<http://www.eco-1-gp.jp/>

イオン eco-1



2021年度の活動予定

(公財)イオン環境財団との共催により実施します。

これまでの参加校数

1,073校



エコの環スクール登録校数

339校



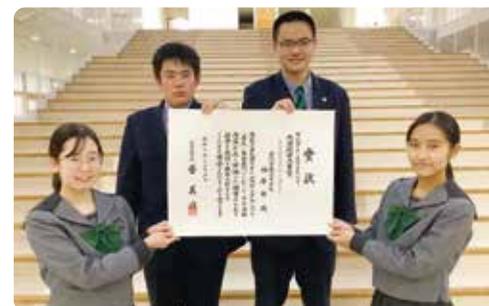
※2021年2月時点



宮城県農業高校



山陽学園高校プレゼンテーション



山陽学園高校



発表を聴く審査員

中学生 作文コンクール



賞状を手記念撮影

参加者の声

作文を書いたことで、家族の大切さやありがたみを感じることができました。

参加者の声

食育講座を受け、オンラインで全国の人とつながれたことは良い経験でした。

参加者の声

ステイホームを思い出し、世界中が早く日常に戻ってほしいと思いました。

感謝の気持ちを大切な人に伝える

健康な心と体、豊かな人間性を育む“食”をテーマに、心に残る食事や料理への感謝の気持ちを、作文を通じて大切な人に伝える「中学生作文コンクール」。全国の中学生を対象に優秀な作品を顕彰し、広く周知することで食育の啓蒙に努めています。2020年は、「コロナによる自粛生活での『食』～心に残る食事や料理と感謝の気持ち～」をテーマに作文を募集し、3,656作品が寄せられました。金賞受賞者を対象に、日本の伝統食材「しょうゆ」と「かつお節」についての食育研修講座をリモートにて開催。事前に送った「しょうゆセットとかつお節」を使った自炊体験を、同世代で共有することで食への理解を深める機会となりました。



2021年度の活動予定

「持続可能な食と農業」をテーマに作文を募集します。

受賞作品はこちら

<http://aeon1p.or.jp/1p/youth/sakubun/>



受賞作品

2020年度応募作品数

3,656作品



累計応募作品数

延べ6,109作品



※2021年2月時点



金賞受賞者を代表して作文を朗読



好みのしょうゆを選び味比べ



調理体験で作っただしスープを試飲



リモートで鰹節の削り方を説明

イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン



カンボジア © UNICEF/UN0290922/Llaurado

カンボジア東部コンボンチャムで安全な飲み水を飲む子ども

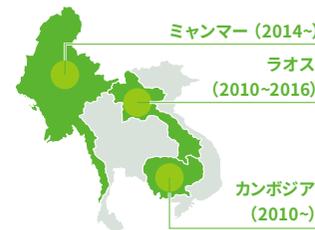
安全な水を、アジアの子どもたちへ

カンボジア、ラオス、ミャンマーの一部地域では、衛生的な水の確保が難しく、不衛生な池の水や、健康を害する恐れのある物質を含んだ地下水が生活用水として使われています。また、遠方への水汲みに時間をとられ、学校で学べない子どもたちもいます。「イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン」は、こうした子どもたちを健康・教育の両面でサポートするため2010年にスタート。日本ユニセフ協会を通じ、全国から寄せられた募金とイオン1%（ワンパーセント）クラブからの拠出金が、安全な水の供給や給水施設の設置に役立てられています。



2021年度の活動予定

カンボジア、ミャンマーにおいて支援を実施します。



安全な水を使えるようになった人の数

約**577,000**人



※2021年2月時点



ミャンマー © UNICEF/Myanmar/2019

設置された給水施設で手を洗うミャンマーの子ども



在日本カンボジア大使館での募金贈呈式



在日本ミャンマー大使館での募金贈呈式

ティーンエイジアンバサダー



参加者の声
タイの生徒はみんな笑顔が素敵で、微笑の国と呼ばれる理由がわかりました。

参加者の声
剣道が一番印象に残りました。ホストファミリーは非常に優しくなりました。

参加者の声
日本人のライフスタイル、ホスピタリティ、素晴らしい技術を学びました。

タイで授業体験をする日本高校生

アジアの国々をつなぐ友好の輪

「ティーンエイジ アンバサダー (小さな大使)」事業は、日本と海外の高校生が、互いの国を訪問し、国際的な相互理解と親交を深める交流プログラム。文化や伝統、生活習慣の異なる同世代の若者たちが、「大使活動」「交流活動」「歴史・文化活動」の3つの活動を通じて交流します。同事業は、1990年より毎年実施しており、これまでに日本を含めた18カ国2,421名が参加しています。



2021年度の活動予定

アセアンでは、マレーシアと日本が交流します。
中国では、東京と北京、北海道と蘇州が交流します。



■これまでの交流国

イタリア・インドネシア・英国・オーストラリア・韓国・カンボジア・タイ・中国・ドイツ・フィリピン・ブラジル・ブルガリア・ベトナム・ペルー・マレーシア・ミャンマー・ラオス

これまでの交流人数

18カ国2,421名
※日本人参加者も含む

※2021年2月時点

プログラム内容 約一週間のプログラムは3つの活動で構成されています。

1 大使活動

母国を代表する小さな大使として、各国の政府や大使館などへの表敬訪問を行います。



2 交流活動

学校での授業体験やホームステイなど、相手のくらしにふれることで、ペア生徒との友情を育みます。



3 歴史・文化活動

伝統文化体験やその国ならではの史跡・施設の見学などを通じ、相手国の歴史と文化を学びます。



アジア ユースリーダーズ



参加者の声
人と人の絆の大切さを学び、アジア各国の学生との文化交流もできました。

参加者の声
チームワークや、役割分担をすることについて多くのことを学びました。

参加者の声
文化の違いによって同じものを見ていても考え方が違うことに気づきました。

参加証明書を手に記念撮影

国境を越え、多様な価値観を学ぶ

「アジア ユースリーダーズ」は、アジア各国の若者が、開催国の社会問題をテーマに、視察や専門家によるレクチャーの後、グループディスカッションを行うプログラム。異なるバックグラウンドを持つインドネシア、カンボジア、タイ、中国、日本、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオスの9カ国の学生たちが、英語を共通言語として議論を重ね、問題への解決策を模索します。グローバル感覚を養い、互いの価値観を認め合う場となっています。2020年は、新型コロナウイルスの世界的な流行が続いていることから、「コロナ禍に伴う学校教育上の課題と改善点・打開策」をテーマに、各国をZoomでつなぎ開催しました。



2021年度の活動予定
アジア9カ国が参加し、日本を拠点に開催します。



開催国とテーマ

- | | |
|--------------------|--------------------------------------|
| 第1回 生物多様性 (ベトナム) | 第7回 水質問題 (タイ) |
| 第2回 持続可能な開発 (ベトナム) | 第8回 食と健康 (日本) |
| 第3回 水と経済 (日本) | 第9回 食と健康 (インドネシア) |
| 第4回 ゴミ問題 (インドネシア) | 第10回 食と健康 (ベトナム) |
| 第5回 大気汚染 (ベトナム) | 第11回 コロナ禍に伴う学校教育上の課題と改善点・打開策 (オンライン) |
| 第6回 ゴミ問題 (中国) | |

これまでの交流人数
9カ国994名
YYYYYYYYYY

※2021年2月時点



オンラインディスカッションをするベトナムの生徒



参加証明書授与



国際大学伊丹学長によるオンライン講義

イオン スカラシップ



参加者の声
日本のインフラ技術を学び、将来発展途上の母国にその技術を取り入れたい。

参加者の声
中日両国のわだかまりに対して、自分で声を出して、思いを伝えていきたい。

参加者の声
ベトナムの国内企業が海外市場で発展することに貢献していきたいです。

ハノイ貿易大学での認定証授与式

アジアの学生の夢を応援

「イオン スカラシップ」は、アジア各国の大学生および日本で学ぶアジアの私費留学生を対象とした給付型奨学金制度です。将来それぞれの専門分野で、日本と祖国の架け橋となり活躍してほしいとの願いのもと、2006年にスタートしました。年間を通じた経済的支援のほか、日本で学ぶ奨学生を対象に、さまざまな研修カリキュラムやボランティア活動などの機会を提供し、グローバル人材への成長を目指す学生たちをサポートしています。各国で開催する認定証授与式では、奨学生が自らの夢と目標を語るスピーチ発表が行われます。



2021年度の活動予定
日本、中国、アセアンの大学に通う各国の学生を支援します。

提携大学がある国



これまでの受給人数
7カ国38大学
7,368人
※2021年2月時点



北京大学での「イオン杯」日本語スピーチコンテスト



スカラシップセミナーに参加する学生



日本での認定証授与式集合写真

災害 復興支援



子ども支援食堂から食材を配達

被災地の復興と、さらなる発展を願って

大規模災害により被災した方々が、日常の生活を一日でも早く取り戻せるよう、復旧・復興を支援しています。国内外で発生した災害の被災地において、復興活動にお役立ていただくため、迅速な緊急支援金の拠出を行っています。

■「イオン子ども食堂応援団」に参画

新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、支援を必要とするご家庭への食品の配達やフードパントリー（食品の受け渡し）等を行う「NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ」「認定NPO法人フローレンス」「認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ」の3団体に寄付金を贈呈し、困難な状況にある子どもたちを支援しました。また、イオンが各地の子ども食堂を通じて子どもの「食」に関する支援を行う「イオン子ども食堂応援団」に賛同し、NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえに寄付金を贈呈しました。

■留学生及び技能実習生の支援

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、アルバイトの機会を失い、生活に困っている学生や、滞在期限を過ぎても欠航や出入国規制等のため帰国出来ない若者、受入先企業の経営が悪化し失業した技能実習生など、経済的支援が必要な外国人留学生や技能実習生を支援するため、インドネシア、カンボジア、ベトナム、ミャンマー、ラオスの大使館へ寄付金を贈呈しました。

■「令和2年7月豪雨」被害に対する緊急支援金を贈呈

7月に九州地方で発生した記録的豪雨により、相次いで土砂崩れや河川の氾濫が発生し、甚大な被害を受けた地域の復旧事業などにお役立ていただくため、緊急支援金として熊本県と大分県に寄付金を贈呈しました。

これまでの支援金

総額 **3,000万円**

※2021年2月時点



各家庭に配達する食材の一例

これまでの支援金

総額 **2,500万円**

※2021年2月時点



在日本インドネシア大使館での支援金贈呈の様子

これまでの支援金

総額 **1,500万円**

※2021年2月時点



熊本県へ支援金贈呈の様子

災害復興支援



参加者の声

森の中は本当に楽しい。また行くチャンスがあったら、絶対に行きたいです。

参加者の声

森を作ったニコルさんに習って、私も森を作る仕事がしたいと思いました。

参加者の声

また絶対アフンの森に行きたい!!リーダーになって、みんなを楽しませたい!

ツリープランコで元気に遊ぶ福島の子ども

東北の復興とさらなる発展を願って

東日本大震災の被災地において、未来へのさらなる発展を支える取り組みを行っています。

福島キッズ森もりプロジェクト

東日本大震災以降、外遊び不足・自然体験不足が案じられている福島県の子どもたちを、森林セラピーの先進地として知られる長野県信濃町や同町黒姫の「アフンの森」に招待しています。子どもたちに身体を動かし、自然に親しむ機会を提供するプログラムです。2016年より計33回実施し、延べ1,025名の子どもたちが参加しました。

これまでの参加人数

延べ**1,025人**

※2021年2月時点



アフンの森で記念撮影



木登りを楽しむ福島の子ども

障がい者ものづくり応援募金

東北の復興と活性化を支援するため、2012年にスタートした取り組みです。寄附金は「認定NPO法人難民を助ける会(AAR Japan)」を通じ、岩手県・宮城県・福島県の障がい者就労支援事業所に届けられ、障がい者の方々のさらなる自立と社会参加の支援に役立てられています。

これまでの寄付金

合計**244,870,999円**



※2021年2月時点



©AAR Japan(難民を助ける会)

支援した台や椅子で作業をする様子



障がい者ものづくり募金贈呈式の模様

首里城復興支援プロジェクト



再建に向け整備を進める首里城

次代を継承する文化的資産の復元を願って

大規模な火災により、世界遺産の首里城（那覇市）が甚大な被害を受けたことに対し、次代に継承する文化的資産の再建をお客さまとともに支援したいとの思いから、イオングループが行っている一連の支援活動に賛同し、当財団では、向こう5年間に5億円の寄付を予定しています。2020年には第1回目の寄付として沖縄県へ1億円を贈呈しました。



現在の首里城正殿前



「首里城復興支援プロジェクト」パネル展を開催



沖縄県庁にて支援金を贈呈

ふるさと 未来支援



盛岡チャグチャグ馬コ

参加者の声

身近にある道後温泉にこんな話があること知り、早速入りに行きたいです。

先生の声

子どもたちがプロの演技や音楽を聴くチャンスを与えていただき感謝いたします。

先生の声

この土地を作った先人への敬う心を、この読みがたりで伝えることができました。

地域のくらしと伝統を、未来へつなぐ

地域社会の一員として、未来の子どもたちへ受け継ぐべき伝統文化や歴史風土の普及に取り組むとともに、地域でくらす人々が絆を深める機会を提供し、より良いコミュニティづくりを支援します。

地域文化・工芸技術の普及啓蒙・継承支援

地域に根づく伝統文化や歴史の継承を目指し、全国のお祭りや市民行事を支援しています。2020年は、「見る・使う・楽しむ・買う」をテーマに、伝統的工芸品をより身近に感じられるイベント「伝統的工芸品展」の開催など44件の行事を支援しました。

これまでに支援した行事の数

662件



※2021年2月時点



群馬県太田市での尾島ねぶたまつり



綾川町伝統芸能展開催

イオンふるさと発見伝

次代を担う子どもたちに「ふるさと」の魅力を再認識し、愛着と誇りをもってもらいたいとの願いのもと、全国の神社や名所旧跡などを舞台に、女優の浅野温子さんによる地域民話の「よみ語り」を実施しています。2012年に東北の復興支援事業として始まった後、開催エリアを拡大し、現在では被災地以外でも地域の中学生を招待しています。



読み語りを熟演する浅野さん



物語に聞き入る中学生

ふるさと 未来支援



参加者の声
子育てのちょっとした疑問
や悩みを解消することが
できて良かったです。

イオンモール秋田で開催

■ イオンすくすくラボ

「イオンすくすくラボ」は、地域で子育て世代をサポートするとともに、日本の童謡・唱歌に親しむ機会を提供する活動です。0歳～3歳の乳幼児のお子さまとそのご家族を対象に、2008年より全国のイオンモールを主な会場として実施しています。子育ての第一人者として知られる筑波大学医学医療系教授 徳田克己先生による育児に関するアドバイスセミナーと、由紀さおり・安田祥子姉妹が会場の親子たちと一緒に歌う童謡コンサートとの二部で構成されています。



子育てセミナーの様子

これまでの開催実績

54回

これまでの参加者数

10,158名

※2021年2月時点

■ 未来農業DAYS

農業活性化に取り組む団体と連携し、日本の未来の担い手を応援する取り組みとして2016年より開催しています。



アロマオイルの原料となるネズミサンを選別



最終審査にて体験型農場を発表

■ アジア障がい者支援募金

各国の中でも社会福祉制度に対する整備が進んでいないカンボジア、ラオス、ミャンマーにおいて、障がい者に対する教育・就労支援を積極的に行っている「認定NPO法人難民を助ける会 (AAR Japan)」の活動に賛同し、2016年より募金活動を実施しています。



テーブル付き車いすですぐ元気に学校に通うカンボジアの子ども



募金贈呈の様子

ワンパーセント
イオン1%クラブのあゆみ

1989年の設立以来、多くの皆さまのご協力のもと、
 小売業の特性を生かした数多くの社会貢献活動に取り組んできました。
 これからも、次代を担う子どもたちの未来を応援し続けます。

1989 ● 「イオングループ1%クラブ」設立

1990 ● 「小さな大使」第1回
 (現：ティーンエイジアンバサダー)



設立を宣言するジャスコ(株)代表取締役会長(当時)岡田卓也



マレーシアとの交流プログラムを実施

1996 ● 環境庁(現：環境省)「こどもエコクラブ」活動支援スタート



こどもエコクラブ



「ココナッツ校」の愛称がつけられた新校舎

2005 ● 「イオン こどもエコクラブ」から「イオン チアーズクラブ」に改称



イオン スカラシップ



カンボジアのクメール文化の継承を願う建設を支援

2006 ● 「イオン スカラシップ」スタート

2007 ● 「シハヌーク・イオン博物館」完成
 ● 地域行事支援スタート



地域行事支援



イオン すくすくラボ

2008 ● 「イオン すくすくラボ」スタート

● 「小さな大使」を「ティーンエイジアンバサダー」に改称

2009 ● 「ティーンエイジアンバサダー同窓会」を実施

● 「アジア大学生環境フォーラム in ベトナム」第1回(現：アジア ユースリーダーズ)



現在のアジア ユースリーダーズ

2010 ● 「日本中国ティーンエイジアンバサダー」をスタート



北京市政府や参加生徒から高い評価を受け毎年開催することを決定

● 「イオンユニセフセーフウォーターキャンペーン」スタート



イオンユニセフセーフウォーターキャンペーン

2011 ● 東北支援スタート

2012 ● 「イオンeco-1グランプリ」第1回開催

● 「イオンふるさと発見伝」スタート



募金活動や植樹活動のほか、東北の子どもたちの夢を応援するプログラムなどさまざまな支援を展開



イオンeco-1グランプリ

2015 ● 公益財団法人へ移行

2016 ● 未来農業 Days サポートをスタート

● 「福島キッズ森もりプロジェクト」スタート



イオンふるさと発見伝



福島県の子どもたちを長野県信濃町黒姫の「アファンノ森」へ招待

2017 ● 「アジア ユースリーダーズ」第1回「食と健康」をテーマに日本で開催



「未来農業Days」をサポート



アジア ユースリーダーズ

2018 ● 「日本中国ティーンエイジアンバサダー」10周年記念事業

2019 ● 30周年記念事業を実施

2020 ● 「首里城復興支援プロジェクト」スタート

● 「イオンこども食堂応援団」を支援



日本中国ティーンエイジアンバサダー「10周年記念事業」開催



歴代ティーンエイジアンバサダーが東京に集結



首里城復興支援プロジェクト



2021年度 活動予定

お客さまのご協力のもと実施する募金活動のほか、ミャンマーにおける学校建設支援や高校生の国際交流事業「ティーンエイジ アンバサダー」、地域の子育て世代を応援する「イオン すくすくラボ」など、国内外でさまざまな活動を実施します。

🌱 次代を担う青少年の健全な育成

イオン チアーズクラブ「エリア交流会」

7月～8月：新型コロナウイルスの収束状況に応じて、エリア単位で実施

中学生作文コンクール※「食と産業」塾の事業活動として再編成

7月～8月：募集 ★
11月下旬：表彰式

イオンeco-1グランプリ

6月～9月：募集 ★
10月：一次選考（書類審査）
11月：二次選考
12月4日：最終審査会、表彰式

ミャンマー学校建設支援

9月18日～10月17日：募金 🍀
11月上旬：贈呈式
3月下旬：現地交流会（オンライン）

イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

4月10日～5月9日：募金 🍀
6月上旬：贈呈式

🌐 諸外国との友好親善の促進

ティーンエイジ アンバサダー（中国）

7月5日～11日：派遣（延期時：3月初旬～中旬）
10月4日～10日：招へい

ティーンエイジ アンバサダー（マレーシア）

11月8日～14日：招へい
1月17日～23日：派遣

アジア ユースリーダーズ

8月17日～20日：国内（東京以外）
（延期時：12月15日～17日オンライン）

イオン スカラシップ（国内）

7月17日：認定証授与式、セミナー
1月15日：スカラシップセミナー（就活応援）
2月18日：修了式

海外スカラシップ（中国）

5月中旬～下旬：日本研修（昨年度延期分、オンラインか中国国内にて代替）
6月：スピーチコンテスト
9月下旬：日本研修
11月～12月：認定証授与式
1月上旬：日中合同成人式

海外スカラシップ（アセアン）

11月～12月：認定証授与式

❤️ 地域社会の持続的発展

首里城復興支援

10月下旬：支援金贈呈式（2/5回目）
11月：イオン店頭募金 🍀

イオン すくすくラボ

開催時期調整中（鳥取市）

イオン ふるさと発見伝

開催時期調整中（南相馬市）

アジア障がい者支援募金

1月11日～2月10日：募金 🍀
3月中旬：贈呈式

★ **ご応募ください**
イオン1%クラブのホームページで順次、詳細を公開します

😊 **ご協力ください**
全国イオングループ店舗で募金活動を実施します

創設者・役員・評議員 一覧

※氏名五十音順 ※2021年7月1日時点

創設者

岡田 卓也

現職

イオン株式会社 名誉会長相談役

理事長

森 美樹

現職

イオン株式会社 相談役

理事

池野 隆光

ウエルシアホールディングス株式会社 代表取締役会長

岡崎 双一

イオン株式会社 執行役

長 有紀枝

立教大学 副総長・大学院 教授

鹿取 克章

外務省 参与 査察使

小島 明

政策研究大学院大学 理事・客員教授

ジョン・ギヤスライト

株式会社ツリークライミングワールド 代表取締役

徳田 克己

筑波大学 医学医療系 教授

西谷 義晴

元イオン株式会社 執行役

山本 良一

東京都立大学法人 理事長

監事

瀬戸 英雄

LM法律事務所 代表パートナー 弁護士

豊島 正明

イオン株式会社 顧問

森 正勝

国際大学 特別顧問 名誉教授

評議員

岡田 元也

イオン株式会社 取締役兼代表執行役会長

柴田 英二

イオン株式会社 顧問

高橋 秀行

共立株式会社 常任顧問

辻 善則

株式会社辻マネジメント研究所 所長

時岡 晤

元イオンマルシェ株式会社 代表取締役社長

藤崎 一郎

一般社団法人 日米協会 会長

村木 美貴

千葉大学大学院 工学研究科 教授

望月 晴文

東京中小企業投資育成株式会社 代表取締役社長

山下 昭典

イオン株式会社 取締役兼代表執行役副社長

渡辺 好明

新潟食料農業大学 学長

寄附・協賛企業一覧

みなさんのお買い物が社会貢献につながります

会社名	主な事業内容
イオン株式会社	純粋持株会社
イオンリテール株式会社	全国で総合小売業を展開
イオン北海道株式会社	北海道において総合小売業を展開
イオン九州株式会社	九州において総合小売業を展開
イオン琉球株式会社	沖縄において総合小売業を展開
イオンリカー株式会社	リカーに係る専門店運営、インターネット販売及び商品供給事業を展開
株式会社サンデー	青森県を中心に東北でホームセンターを展開
マックスバリュ西日本株式会社	西日本で食品スーパーマーケットチェーン「マックスバリュ」「ザ・ビッグ」を展開
オリジン東秀株式会社	弁当、惣菜販売を中心に事業展開
ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社	関東圏で食品スーパーマーケットを展開するマックスバリュ関東(株)、(株)カスミ、(株)マルエツの持株会社
マックスバリュ東海株式会社	食料品を中心としたスーパーマーケットの運営
まいばすけっと株式会社	都市型小型食品スーパー「まいばすけっと」の運営
株式会社光洋	関西都市部でスーパーマーケットを展開
ウエルシアホールディングス株式会社	調剤薬局併設型ドラッグストアを展開するウエルシア薬局(株)などの企業を傘下に持つ持株会社
イオンフィナンシャルサービス株式会社	カード事業を中心に金融サービスをグローバルに展開
イオンクレジットサービス株式会社	クレジットカードや電子マネーなどの決済事業を展開
株式会社イオン銀行	商業と金融が融合した小売業発の銀行を展開

会社名	主な事業内容
イオン保険サービス株式会社	生命保険、損害保険代理業を展開
イオンモール株式会社	多機能複合型商業施設を開発する商業ディベロッパー
イオンタウン株式会社	全国にNSC(近隣型ショッピングセンター)を展開する商業ディベロッパー
イオンディライト株式会社	IFM(インテグレートド・ファシリティマネジメント)事業
株式会社イオンファンタジー	ショッピングセンター内で、ファミリー向けアミューズメント施設とインドアプレイグラウンドを展開
イオンエンターテイメント株式会社	マルチプレックス方式による映画、演劇、音楽その他各種イベントの興行を展開
リフォームスタジオ株式会社	洋服のリフォーム、靴修理と合鍵の専門店、レンタル収納スペース、コインランドリー店を展開
イオンペット株式会社	ペットフードや用品の販売、トリミングサロン、動物病院、ペットホテル、しつけ教室、介護ケアなどを展開
メガベトロ株式会社	ガソリンスタンド「ベトラス」をショッピングセンターに展開しカーケアサービス(タイヤ・コーティング等)を拡大中
イオンコンパス株式会社	旅行商品販売のほか、貸し会議室運営やイベント企画運営などビジネスソリューション業務を展開
株式会社未来屋書店	イオンを中心とした大型ショッピングセンターに書籍専門店を展開
イオンアイビス株式会社	イオングループ各社のITインフラ・システム開発・運用、ならびにバックオフィス業務のシェアードサービスを展開
イオントップバリュ株式会社	トップバリュの商品企画・開発、販売促進を展開
イオンフードサプライ株式会社	畜産・水産・デリカ商品の製造加工ならびに配送事業を展開
イオンマーケティング株式会社	共通ポイント「WAON POINT」の運営及び高付加価値のマーケティングソリューション業務を展開
株式会社生活品質科学研究所	お客さまの笑顔と喜びを創造し続ける「くらしの品質」創造企業

※2021年3月1日時点に開示されている情報に基づく